

I 総論

1 教育理念

建学の精神

創立者松前重義（1901～1991）は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、1925年 内村鑑三（1861～1930）の研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになった。特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して1936年東京武蔵野に「望星学塾」を開設した。

ここに学園の原点がある。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げた。

- ・若き日に汝の思想を培え
- ・若き日に汝の体軀を養え
- ・若き日に汝の智能を磨け
- ・若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけている。

本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けていく。

東海大学医療技術短期大学の教育理念

建学の精神に基づき、生命尊重の人間観、歴史観、世界観の確立による「人間愛」を根底とする看護観を育み、その信念と行動によって人類の平和に貢献できる人材を育成する。

教育方針

本学は、1974年開学時に示された創立者松前重義の「温かい看護のできる人間性豊かな看護師を育てる」を教育方針としている。

教育目的

教育基本法及び学校教育法に則り、人道に根ざした深い教養をもつ社会人並びに医学医療の進歩に適応する高い専門知識と技術を持ち、生命尊重の人間観、人生観、社会観とその使命感を有する視野の広い医療技術者を育成することを目的とする。

教育目標

1. 人間愛を深め、生命の尊厳と人間性の尊重を基調とし、調和の取れた社会人としての成長をめざす。
2. 看護に関する理論および技術を学び、看護実践の基礎能力を身につける。
3. 主体的に学習を継続し、問題意識を持って探究する姿勢を身につける。
4. 保健医療福祉における看護の機能と社会的役割を認識する。
5. 保健医療福祉の中で生じる問題を理解し、倫理的・道徳的に対処する能力を身につける。
6. 関連諸科学を統合して人間理解を深め、看護観の確立をめざす。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する基本的な方針）

本学では、以下の能力を身につけ、且つ、所定の単位を修得し卒業した学生に短期大学士（看護学）の学位を授与する。

（卒業時期待される結果）

1. 人間を常に成長し続ける存在として捉え、生命尊重とその人個人としての人間性を尊重し看護実践ができる。
2. 様々な発達段階および健康の段階にある個人・集団に対して、その個人の健康状態の評価を行い、適切な生活過程を整え、自立を促すための看護が提供できる。
3. 保健医療福祉チームの一員として、看護職の独自の機能と役割を担うことへの自覚と責任を持ち、専門職としての意思決定に参加することができる。
4. 社会のニーズに対応した看護を提供するために、常に専門職として主体的に学び続ける意思を表明することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施に関する基本的な方針）

本学では、その教育理念に基づき、教育基本法及び学校教育法に則り、人道に根ざした深い教養を持つ社会人ならびに医学医療の進歩に適応する高い専門知識と技術を持ち、視野の広い医療技術者（看護師）を育成するために以下のようにカリキュラムを編成する。

1. 学園の建学の精神を具体的に学ぶ本学教育の中核となる科目として現代文明論を位置づけ、看護学を学ぶ学生が専門意識にとらわれず自らの専門を生かす基盤としてゆく。
2. 広く多様な基礎的知識と学習能力を獲得するために、基礎教育科目として、「総合教育科目」「情報科学」「外国語科目」「体育科目」を設置する。
3. 専門的な知識・技術を体系的に学ぶために、専門基礎分野から専門分野、そして統合分野へと段階的に学習できるよう科目を設置する。
4. 問題意識をもち、主体的に学習を継続できるように参加型の授業方法を多く活用する。
5. 演習・実習は少人数制とし、看護実践能力のより充実した獲得を図る。
6. 個々の学生を尊重した教育を展開する。

アドミッション・ポリシー（学生募集の方針）

学園の建学の精神を理解し、本学の教育理念に共鳴し、人を愛し、温かい看護をめざす人を求めます。

2 沿革

1974年4月1日 第一看護学科（40KF生）50名、第二看護学科（40KS生）50名定員で、湘南校舎に開学し、同時に医学部が伊勢原校舎に開学した。

第一看護学科は高等学校卒業生または卒業見込みの者に受験資格がある3年制のコース。第二看護学科は高等学校卒業生または卒業見込みの者で准看護師の免許所有者または取得見込みの者に受験資格がある2年制のコースであった。

初代学長である創立者松前重義は医療技術短期大学について、「東海大学はかねてよりの念願であった医学部が発足し、東洋一の付属病院も開院した。しかし、如何に優秀な医師を集め、最新の医療機器を整備しようとも、それをアシストする看護婦の献身的な看護なくしては、病院は心をもたない冷たい科学の殿堂にすぎなくなる。私はかねてより医療の実践における看護婦の存在を強く認識しておったので、医学部および付属病院の発足と時を同じく、看護婦の養成機関である医療技術短期大学を開学した」（『東海大学建学の記』p.89）と本学の建学の理念を記述している。

創立者松前重義は『学生便覧（1973）』の巻頭言「人道的で愛情に満ち、使命観に徹した看護職員を」のなかで「東海大学の指向する建学の理念は、物質文明と精神文明の調和による総合文明建設のための人材を養成することにあります。本学はこの理念に基づき、生命尊重の人生観・歴史観・世界観を確立させるとともに、自己の使命を自覚し、広い視野と高度の専門知識をもった医療技術者の養成をめざしています。しかも本学に学ぶ学生は、人道的で愛情に満ち、看護という職責に使命観を持ちうる人でなければいけません」として「人間愛を深め、生命の尊重を基調とするばかりでなく、身体的、精神的、社会的にも健康を保持し、増進に寄与しうる専門職としての看護婦養成に全力を傾け、日本における看護の画期的存在たらんとしている」と本学の建学の理念を記述している。

本学は開学1年前から内田靖子初代学部長を中心に、看護教員スタッフによる本学設立に向けて様々な事柄を検討すると同時に東海大学建学の精神を深く理解するためにデンマーク研修を実施した。第1回は1973（昭和48）年11月2日に内田靖子学部長を団長として、第2回は1974年1月11日に井上幸子教授を団長として実施した。

創立者松前重義は青年時代に内村鑑三を通してデンマークの国づくりを知り、教育活動の重要性を認識された。それが今日の東海大学に結実したのであるが、プロシアとの戦争に敗れ豊かな国土の三分の二を失ったデンマークの、「祖国再建の方途もわからぬままに絶望的な生活を送る人びと」（『現代文明論』東海大学出版、p. 8）の中から立ち上がったのは、92歳の牧師グルントヴィであった。グルントヴィは荒廃した国土を再建するのは、教育を通じて青年たちに向うべき道を自覚させなければならないとし、働きながら学ぶ「国民高等学校」をつくり、国土の再建に情熱を傾けた。本学の看護教員がデンマークにおいて研修したのは、福祉国家としての先進国の精神と技術を学ぶことと同時に、創立者松前重義の建学の精神を実地に学ぼうとしたからであった。この成果は1975年8月の第1回ヨーロッパ研修としてデンマークで学生が研修する道へとつながり、その後デンマーク看護研修となり、2014年度で第40回を迎える伝統ある研修となり、本学教育の中心的な柱になっている。

以降、開学からの沿革をみると、

1974年10月31日 デンマークからクリステ・ユル夫妻が来校された。ユル先生はデンマーク看護協会のオーフス支部長のとき医療技術短期大学のデンマーク研修の受け入れに尽力された恩人である。

1975年9月 第1回戴帽式を実施。

1976年4月 第一看護学科、第二看護学科ともに定員各80名となった。

同年4月 医療技術短期大学同窓会が発足した。

1977年10月1日 第二代学長に笹本浩教授（医学部教授・付属病院長）が就任した。笹本学長は『学生便覧（1978）』の巻頭言で「ヒューマニズムと科学の調和は、東海大学の指向する建学の精神であります。」とし、専門職としての医療技術者の養成に全力を傾注すると所信を述べた。

1978年11月1日 第1回飛鳥祭を実施した。

1983年4月 定員変更により、第一看護学科100名、第二看護学科50名となった。

1987年5月27日 松前記念体育館（伊勢原校舎2号館）が竣工し、本学の伊勢原教室も新館三階に移転した。

同年9月23日 第1回東海大学短期大学（部）スポーツ大会が三短大合同で、湘南校舎総合体育館で実施された。

1989年5月20日 本学建学15周年式典と記念シンポジウムが伊勢原文化会館で実施された。

1991年4月 「東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設」を設立した。佐々木正五施設長は『総合看護研究施設年報第1号（1991）』の巻頭言において、「近年における生物学的技術の急速な発展と、医療に対する社会的期待感の変貌は、看護自体の新しい姿の開発を求めるに至った。」「本学では総合看護研究施設を創立し、時代の流れと学問的要請に答えようとしている。かかる意味からも本施設は閉鎖的であることは許されず、広く学問の発展を願うもので、そのマイルストーンとして年報を刊行する」とし、年報

の発刊と研究施設の役割を述べている。

1993 年度より「現代文明論」の運営が東海大学文明研究所から「現代文明論委員会」に替わり、「東海大学医療技術短期大学文明論委員会規程」が4月1日制定された。

1994年10月15日 本学創立20周年記念行事が湘南校舎の松前記念講堂で開催され、「デンマーク看護研修・20周年記念講演会」で、メレーテ・トーセン（デンマーク看護協会）、グレダ・ギリング（オーフス看護学校）の両先生による講演が行われた。

1996年4月 第一看護学科の定員が70名になった。

1997年4月 指定規則の一部改正（1997）を受けて、第一看護学科および第二看護学科カリキュラムの大幅な変更を行った。

1999年3月 デンマークより、教員7名、学生9名の研修を受け入れた。

2000年1月 セクシュアル・ハラスメント人権委員会規程制定。

2000年4月 看護婦2年課程について指定規則改正（1999）があり、第二看護学科のカリキュラムを改訂した。また、東海大学運営方針において、総長が(1)従来型の知識注入型、教師独演会型から、学生・生徒との対話型、学生・生徒参加型への切り替え、(2)学生の基礎学力の向上、考える教育へ、(3)教育改革の決定的な力となるのは、教員の教育力の向上、すなわちFDが重要であり、これは制度の改革ではなく、意識改革であると明言。本学でも、東海大学授業評価にそって授業評価を開始した。

同年12月13日 デンマーク王国オーフス地域看護学校(現 VIA ユニバーシティカレッジオーフス校)、および2001年1月16日中国牡丹江華日高級中学との間において学術交流に関する協定が締結された。

2001年4月 第一看護学科のカリキュラムを改訂した。

同年外部の教育機関からの評価として、A医療短期大学による査察を受けた。

2002年4月 学生の生の声を教育に反映する目的で「意見箱」を設置した。

2003年度よりFDの一貫として、本学教員による授業を対象としてTeaching of the Year（褒章制度）を設けた。

2004年4月 第二看護学科は募集停止、第一看護学科は看護学科へと名称を変更し定員80名となった。

2005年3月 第二看護学科は廃止された。

2005年4月 看護学科のカリキュラムを改訂した。

同年8月 2004年度教育研究年報を30周年記念号として発刊するとともに、10月松前記念会館においてデンマークよりインガー・マルグレーテ・イェンセン先生およびグレタ・ギリング先生をお招きして30周年記念式典を開催した。

2006年4月 デンマークより学生10名、教員10名の研修を受け入れた。

同年9月 短期大学協会（第三者評価認証機構）による第三者評価を受け、認証された。

2007年4月 倫理委員会を設置した。

2008年4月 FD委員会を設置した。

2009年4月 カリキュラム（2005年改訂）の評価および指定規則一部改正を受け、カリキュラムを改訂した。

2010年4月 デンマークより学生26名、教員4名の研修を受け入れた。

2012年3月 カリキュラム（2009年改訂）の評価を行った。

2013年3月 デンマークより学生14名、教員2名の研修を受け入れた。

同年10月 短期大学協会（第三者評価認証機構）による第三者評価を受け、認証された。

2014年より教務委員会を廃止し、カリキュラム委員会を常設とし、実習委員会を新たに発足させた。

2014年8月のデンマーク看護研修において「40周年記念式典」を開催していただき、東海大学総長、本学学長、研修団が招待された。

2015年3月 デンマークより学生13名、教員3名の研修を受け入れた。